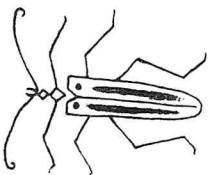


- 32○ツヤケシハナカミキリ  
 33○シラホシカミキリ  
 34○トガリシロオビカミキリ  
 35○クモガタケシカミキリ  
 36 ゴマグラカミキリ  
 37○ナカバヤシモブトカミキリ  
 38○ナガゴマフカミキリ  
 39○ニイジマチビカミキリ  
 40 ニセリングガミキリ  
 41 ニセシラホシカミキリ  
 42 ○ハイイロヤハズカミキリ  
 43 ○ヒメスギカミキリ  
 44 ヒメリングガミキリ  
 45 ○ヒトオビアラゲカミキリ  
 46 ○ヒメクロトラカミキリ  
 47 ヒメコブヤハズカミキリ  
 48 ヘリグロリングガミキリ  
 49○ベニカミキリ  
 50○ホタルカミキリ  
 51 ホソキリングガミキリ  
 52○マツノマグラカミキリ  
 53○ミドリカミキリ  
 54 ムナクボカミキリ  
 55○ヒメヒゲナガカミキリ  
 56○ヨツキボシカミキリ  
 57○ヨツスジトラカミキリ  
 58○ヤツボシハナカミキリ  
 59○ヤハズカミキリ  
 60○ヤマトチビコバナカミキリ  
 61○ラミーカミキリ  
 62 リングガミキリ  
 63○ルリカミキリ  
 64○ワモンサビカミキリ  
 65 ノコギリカミキリ  
 66○ピロウドカミキリ  
 67 ハンノキカミキリ

(○印は材より羽脱した種)

(S.29: Kazushige Yonemura 相生市)

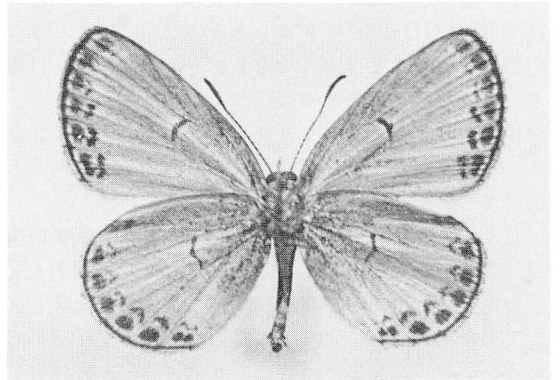


## ヤマトシジミ斑紋異常個体を採集

高柳 栄一

1986年9月25日、揖保郡揖保川町馬場において本種のパイパン型1♂を採集したので報告する。当日は当地にて、シルビアシジミの産卵を観察中に採集したもので、飛翔中は白っぽい印象を受けた。なお、写真撮影は木村三郎氏にお世話になった。

(S73: Eiichi Takayanagi 姫路市)



### 表紙の説明

#### 水草に翅を休めるベッコウトンボ

相坂耕作 文  
 斉藤和郎 写真

絶滅寸前であり、現在近畿地方では兵庫県下でしか生息していない珍しいトンボ。シオカラトンボくらいの中型トンボで、雄は黒褐色、雌は淡褐色、翅の斑紋がベッコウ色をしている。

本種は、植生の変化、水質の汚濁にも非常に弱く、わが国では最も絶滅の可能性の高い種類とされるため強力な保護対策が必要とされている。

県下でも10年余り前までは、加古川流域などの広い地域で見られたが、開発や農業の影響で、ほぼ全滅状態となった。しかし幸いにも東播磨地方の小野市付近で現在もかなりの飛翔がみられることは喜ばしいことと思う。

小野市付近に生息するベッコウトンボは、4月中、下旬から羽化が始まり、6月中旬頃まで成虫が見られる。最盛期は5月上旬頃。なおこの産地もいずれ埋立て、水質変化またヤゴが生息する特殊な環境（池底の砂や泥が適当にあるかなど）絶滅する可能性に枚挙にいとまがない。